

国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

| 研究科 | 専攻 | 試験科目 | 参考書等持込 |
|--------|-------|---------|--------|
| 経済学研究科 | 経済学専攻 | 労働経済論研究 | 不可 |

1. 図は、生産量 Q の時の等量曲線（実線）と等費用線（破線）を示したものである。横軸 L は労働投入量を、縦軸 K は資本投入量を表している。当初、労働の単価 1000 円、資本の単価 2000 円であり、その時の労働投入量は 40 であった。その後、労働の単価が上がったが、生産量 Q を維持し、労働投入量は 25 になったという。以下の問いに答えなさい。

(1) 労働の単価が上がる前の総費用はいくらか。
(但し、ここでの生産要素は労働と資本のみである)

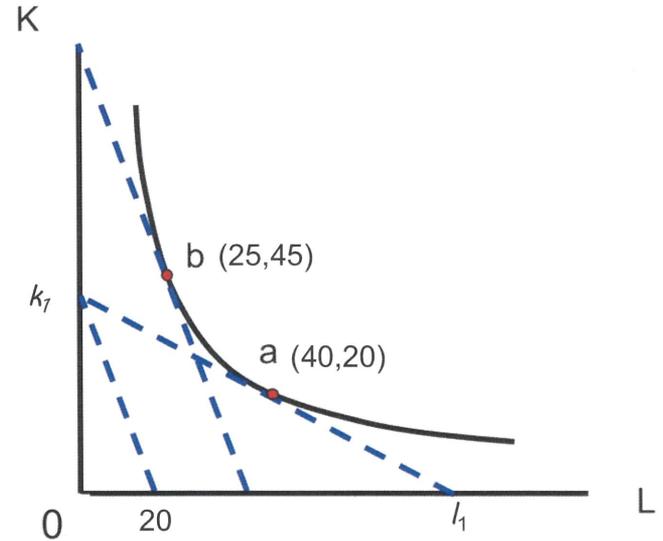
(2) k_1 と l_1 の値をそれぞれ答えなさい。

(3) 労働の単価は 1000 円からいくらに上がったか。

(4) 労働の単価が上がった後の総費用はいくらか。

2. 企業特殊的人的資本への投資が行われる場合、その費用は誰が負担すると考えられるか。そう考えられる理由まで記述すること。

3. 日本の雇用慣行について説明しなさい。



令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

| | |
|-------|--------------|
| 研究科名 | 経済学研究科 経済学専攻 |
| 試験期別 | I期 |
| 試験区分 | 一般選考 |
| 試験科目名 | 労働経済論研究 |

■出題の意図

設問1は、学部レベルの労働経済学の理解度を確認するものである。
単に知識として知っているだけでなく、数値が与えられた時に計算して求められるかを確認する。

設問2は、人的資本理論の理解度を確認するものである。
論理的な説明力もあわせて確認する。

設問3は、日本的雇用慣行に対する理解度を確認するものである。
理論だけでなく実際の事象に対しても興味関心をどの程度持っているのかを確認する。

■採点のポイント

設問1は、数値が正しく求められているかどうかで、判定する。

設問2は、企業特殊的人的資本とは何か、正しく説明した上で、労使における費用と収益との配分方法について、論理的に説明出来ていれば、満点をつける。

設問3は、アベグレンが見出した日本的雇用慣行について、正しく説明されていれば8割、さらに近年における変化にまで正しく言及されていれば満点をつける。